

2016/8/23

kagawa urushi project ZOKOKU BRAND

工芸を超えた究極のアート

kagawa urushi art project



brand story

challenge

information



主催：香川県、高松市 お問合せ先：香川県 政策部 文化芸術局 文化振興課 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3782

| 香川県立ミュージアム | 香川県漆芸研究所 | 高松市美術館 | かがわアートナビ |

工芸を超えた究極のアート

kagawa urushi art project



brand story

challenge

information



主催：香川県、高松市 お問合せ先：香川県 政策部 文化芸術局 文化振興課 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3782

| 香川県立ミュージアム | 香川県漆芸研究所 | 高松市美術館 | かがわアートナビ |

2016/8/24

kagawa urushi project ZOKOKU BRAND

工芸を超えた究極のアート

kagawa urushi art project



brand story

challenge

information



主催：香川県、高松市 お問い合わせ先：香川県 政策部 文化芸術局 文化振興課 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3782

| 香川県立ミュージアム | 香川県漆芸研究所 | 高松市美術館 | かがわアートナビ |

工芸を超えた究極のアート

kagawa urushi art project



brand story

challenge

information



主催：香川県、高松市 お問い合わせ先：香川県 政策部 文化芸術局 文化振興課 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3782

| 香川県立ミュージアム | 香川県漆芸研究所 | 高松市美術館 | かがわアートナビ |

工芸を超えた究極のアート

kagawa urushi art project

brand story

challenge





information

brand story

ブランドストーリー

江戸時代後期、漆の世界にこれまでにない革新的な加飾技法を生み出したひとりの漆師がいました。その名は玉楮象谷（たまかじぞうこく）。「蒔繪（きんま）」「存清（ぞんせい）」「彫漆（ちょうしつ）」の三技法で生み出される、表現豊かで洗練された漆の世界は、まさに工芸を超えた究極のアート。象谷が切り開いたのは、自由で新しい漆の表現世界。こうして花開いた香川漆芸の伝承により、これまでに5人もの人間国宝を輩出しています。彼のスピリットを時代を越えて受け継ぐ、香川漆芸の若き担い手たちの作品を、ZOKOKU BRANDと名付け、その知られざる魅力を広く発信していきます。

玉楮象谷

Tamakaji, Zokoku

自由で新しい発想を求めて
漆の歴史を変えたイノベーター。



玉楮象谷《彩色蒔器料紙硯箱》

讃岐・高松に生まれた玉楮象谷は、東本願寺や大徳寺などが秘蔵する中国やタイ、ミャンマーなどの漆芸作品に接し、彼の創作意欲は大きく刺激されました。その後、多くの漆芸技術の知識を高松に持ち帰った彼は、松平頼愨（第九代藩主）によって才能をみいだされ、藩の宝蔵品の管理・修理も任されるようになり、それらをつぶさに観察し、自分の技術として発展させました。その研鑽が実を結び、玉楮象谷独特の漆芸技法を確立しました。当時主流であった蒔絵にかわるものとして、中国・東南アジアの漆芸技術を消化して、日本独特の技法を開発したのです。これらの技法は、今日では「蒔器（きんま）」存清（ぞんせい）、彫漆（ちょうしつ）」として香川の地で発展し、「香川の三技法」と呼ばれています。

香川の三技法

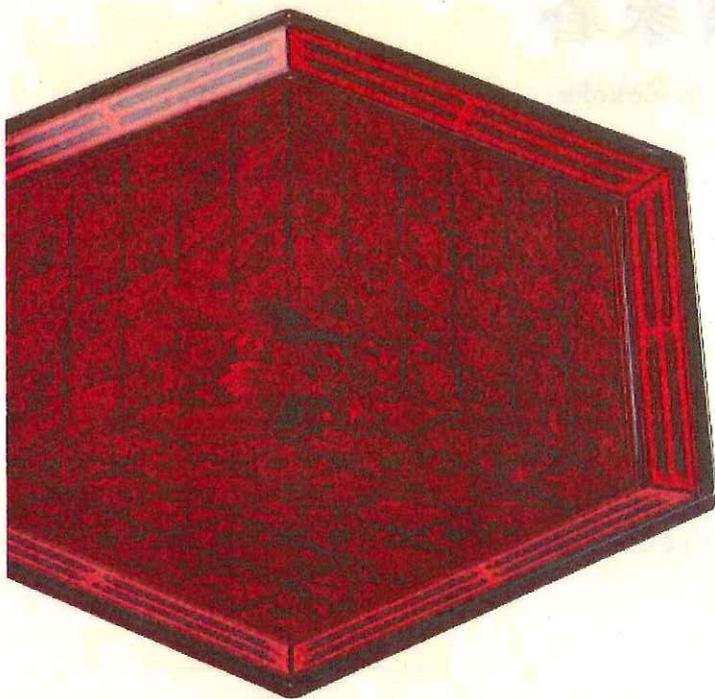
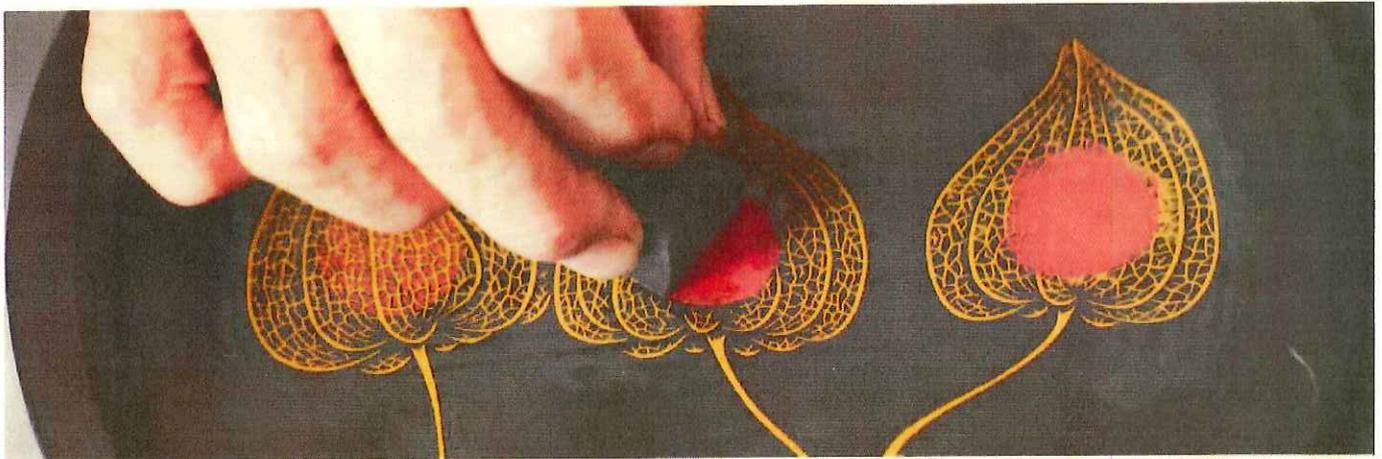
流派を超えて、自由で新しい発想を
追い求めて生まれた超絶技巧。

江戸時代は金銀粉をもちいた絢爛豪華な蒔絵が主流でした。

玉楮象谷は、蒔絵に追随することなく、むしろ新しい技法で漆芸を極めようと、独特の技法を生み出しました。

蒔絵のように特別の流派もないため、かえって自由で、しかも新しい分野に新しい発想で取り組めたのです。

現代であれば、玉楮象谷の漆芸にのぞむ姿勢は、新しい産業を興そうとしている起業家精神に似ているとも言えます。



磯井如真 《蒔罽干菓子盆 亀鶴松竹梅之図》

蒔罽

Kimma

器物の上に漆を十数回塗り重ね、蒔罽剣で文様を彫ります。そして、彫り込みを入れた溝に色漆を埋め、表面を平らに研ぐことによって、思うような文様を表現する技法です。タイやミャンマーより伝わり、さらに、室町時代、中国を経て日本に伝わりました。

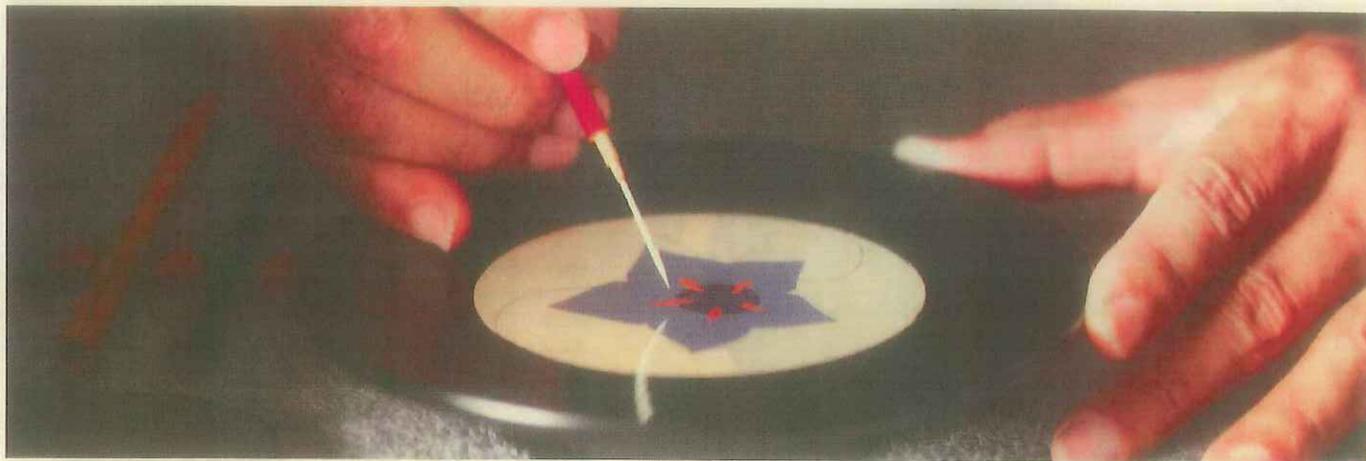
現在、3人の重要無形文化財保持者（人間国宝）らによって
守り伝えられています。

磯井 正美（1985年認定）

太田 喬（1994年認定）

山下 義人（2013年認定）

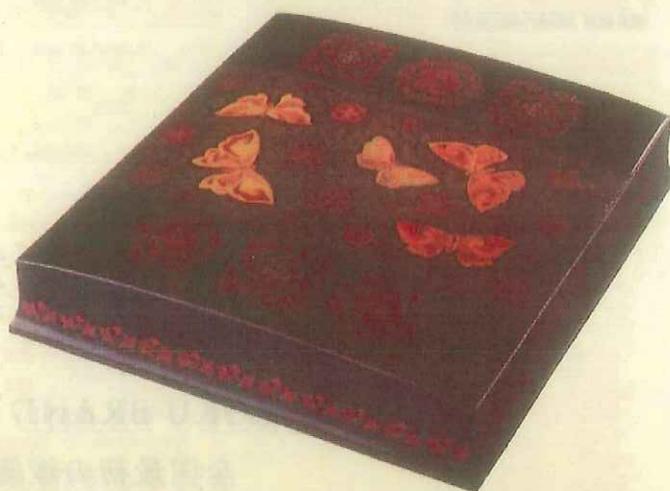




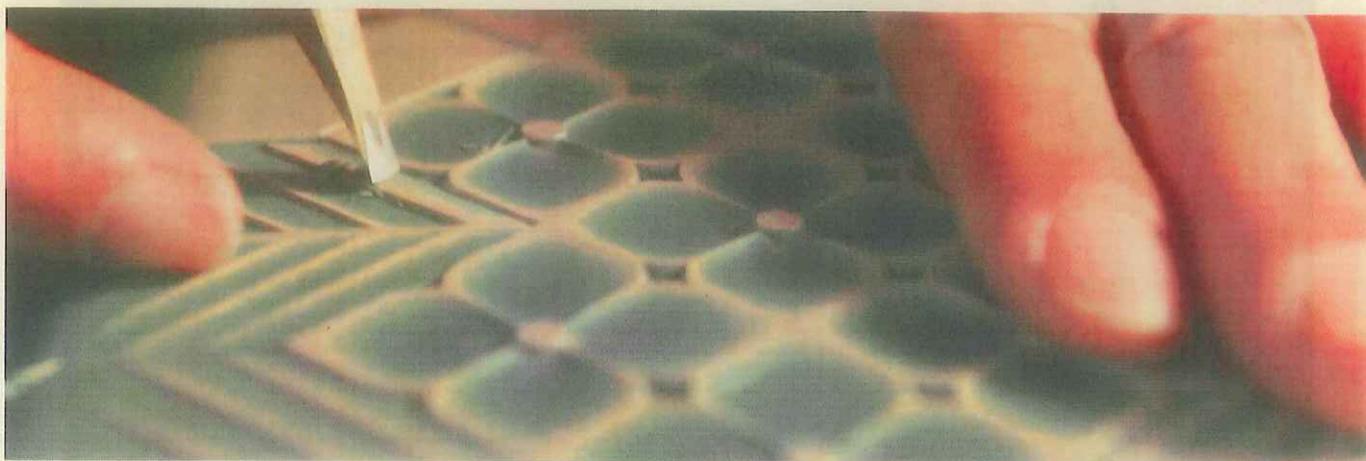
存清

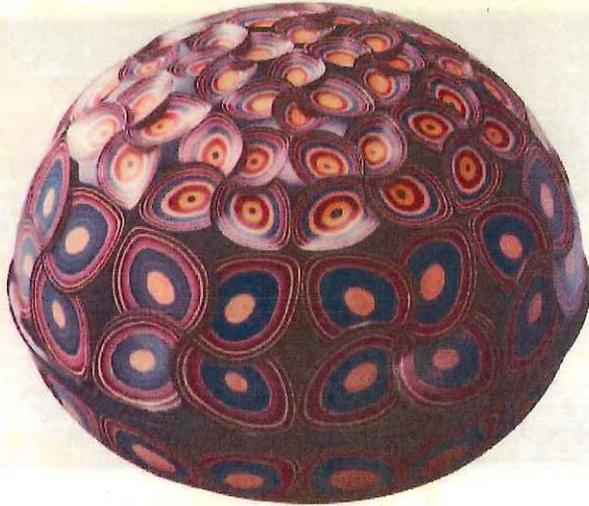
Zonsei

漆を塗り重ねた器物の表面に色漆で文様を描きます。
そして、剣で輪郭や細部に線彫りを加えて素彫りにして
います。
玉椿象谷は、この技法で存清の作品を制作しています。
現在では彫り口に金粉や金箔を埋めて文様を引き立てま
す。



香川宗石《調岐漆 存清花蝶紋 色紙箱》





音丸耕堂《彫漆八仙花番合》

彫漆

Choshitsu

各種の色漆を数十回から数百回塗り重ねて色漆の層（100回で厚さ約3mm）をつくり、その層を彫り下げることによって文様を浮き彫りにする技法です。彫りそのものによる立体感と彫りの深さによって生じる色層の変化の対照が、独特の美しさを生み出します。

室町時代に中国から日本に伝わり、彫りの技術に優れている玉楮象谷は、この彫漆技法を用いて作品を制作しました。朱漆だけを塗り重ねたものを堆朱（ついしゅ）、黒漆だけを塗り重ねたものを堆黒（ついこく）といいます。

現在では、顔料の発達により、さまざまな色漆が使われています。

香川県漆芸研究所

ZOKOKU BRAND を次世代へ受け継ぐ
全国最初の後継者育成施設。



香川県漆芸研究所は、香川県の伝統工芸である蒔繪（きんま）、存清（ぞんせい）、彫漆（ちょうしつ）などの技法を保存し、後継者の育成と技術の向上を目的とする全国最初の施設として、1954（昭和29）年11月設立。
2014（平成26）年11月に創立60周年を迎えた香川県漆芸研究所の修了者（研究生）は400人を超えており、漆工芸作家や漆工技術者として活躍するなど、香川の伝統漆工芸や伝統産業の振興に寄与しています。

2016/8/24

kagawa urushi project ZOKOKU BRAND | BRAND STORY

2013（平成25）年には、山下義人指導員（第15回修了者）が当研究所修了者として初めて
重要無形文化財蒔罫保持者（いわゆる人間国宝）に認定されました。

公式サイトへ

主催：香川県、高松市 お問合せ先：香川県 政策部 文化芸術局 文化振興課 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3782

| 香川県立ミュージアム | 香川県漆芸研究所 | 高松市美術館 | かがわアートナビ |

challenge

作家紹介

Eri Asano

浅野 絵莉

マーク・ロスコ、マンズー、鴨居玲、音丸初堂、、、感銘を受けてきた素晴らしいものもののように、自分から生まれる美しいものに出会えるよう、制作を続けていきたい。

- 1986 千葉県生まれ
- 2010 東京藝術大学美術学部工芸科漆芸専攻 卒業
- 2015 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了
- 2016 香川県漆芸研究所 研究員課程 修了
- 2016 第33回日本伝統漆芸展 入選 蒔絵菓子器「あおあお」



Naoki Ami

網 直紀

ます。現在は、香川で発達した色漆で、微細な絵付けを施したアクセサリーで新しい表現を探しています。

- 1976 栃木県生まれ
- 2000 東京藝術大学美術学部工芸科漆芸専攻 卒業
- 2003 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了
- 2005 第22回日本伝統漆芸展 入選 蒔絵色紙箱「刻々と」
- 2006 第53回日本伝統工芸展 入選 蒔絵合子「こくりこ」
- 2006 第23回日本伝統漆芸展 入選 蒔絵色紙箱「白露」



Yuri Kato

加藤 友理

いけなく「たまたま」選んで通ったのが「漆芸」の道でした。そこから約18年経ちますが、色々な方との出会いと支えのおかげで今に至っています。その中でも京都から香川県漆芸研究所へ来られたことと、香川漆芸を学べたことは今も漆芸を続けられているとても大きな出会いです。これからも作品を楽しく作り続けていけたらと思います。

- 1983 京都府生まれ
- 2003 京都市伝統産業技術者研修専科 修了
- 2007 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了



Natsuko Kamigaki

神垣 夏子

漆芸を始める以前はソフトウェア開発の仕事をしていました。

仕事を辞め真逆の道を選びましたが、伝統工芸で学んだ技術や知識は私にとって計り知れないものがありました。

香川漆芸を時代や生活様式にそぐわせる事は容易ではありませんが、とても魅力的な技術だと思いますので、今後も地道に精進してまいりたいと思います。

1981 東京都生まれ

2004 中央大学理工学部土木工学科 卒業

2010 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了



Michiyo Kitaoka

北岡 道代

東京での父の個展を観に行ったとき、作品から父の生きざまが見えてきて「この世界を知らずして死ぬと後悔する」と思ったのが漆を始めたきっかけです。

現在は父の教えのもと、卒礼の工房で製作中。父の作風を取り入れつつ、自分の色も出せるよう邁進しています。

1977 香川県生まれ

1996 香川県立高松北高等学校 卒業

2009 父 北岡省三に師事



Eriko Kirihara

桐原 絵梨子

大学で、芸術ゼミの先生からの漆芸を勧められたのがきっかけです。香川県へ見学に行った時、漆塗りの色紙箱を見た期間、睡のような艶やかな黒色に魅了されました。

その後、技術を学ぶ中で、何層も塗り重ね、模様を彫り出す色彩豊かな彫漆という技法で、小物、アクセサリー、箱を中心に製作しています。

1979 広島県生まれ

2002 広島修道大学高学部 卒業

2005 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了

2006、2007 香川県漆芸研究所 研究員課程 修了



Sakura Kokubo

小久保 さくら

初めて漆の器を見たとき、その艶や漆の持つ力に魅かれ、漆の器を自分で作ってみたいという思いで始めました。香川を訪れて香川漆芸に触れ、他の産地にはない、色彩の豊さ、多様な表現はこれまでに見たことがなく、魅力的なものばかりでした。

思いもかけない姿をみせてくれる漆と楽しみながら触れ合っていきたいです。

- 1986 愛知県生まれ
- 2009 愛知教育大学教育学部生涯教育課程造形文化コース 卒業
- 2011 輪島漆芸技術研究所特別研修課程専修科 修了
- 2016 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了



Mayu Kodama

小玉 真裕

私は偶然出会った香川漆芸が好きです。

多くの人に、そして一度は見てもらいたい！

作品制作を通して、日常を見る目に変化が生じているように感じています。

いま作りたいのは、ずっと見続けていたい景色のように、一生大切にもらえる作品。

今後も年を重ねながら、漆芸と向き合っていくことが楽しみです。

- 1982 北海道生まれ
- 2005 北海道大学水産学部 卒業
- 2015 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了



Kaori Sugano

菅野 かおり

20歳の時、工芸の仕事がしたいと大学の先生に相談すると、漆芸研究所を勧められ、入所しました。卒業後は、弟子入り期間から公募展やグループ展で作品を発表し、オーダー品の制作等していました。2011年から現在まで育児休業中です。

今後は、より彫漆に焦点を当てた作品を作っていきたいと思います。

- 1976 広島県生まれ
- 1998 広島修道大学 中途退学
- 2001 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了



Yui Fujimura

藤村 由

大学で初めて漆に出会い、技法にこだわらない自由な造形表現を学びましたが、細やかな手作業を駆使した伝統工芸の持つ魅力に惹かれるようになりました。中でも色彩が自由で表現の幅が広い香川漆芸が自分の表現と合っていると感じました。

師匠の技法は自分のイメージ、特に風景や季節の情景があまり技法にとらわれずに形にできる部分が自分に向いていると感じます。現在制作休業中のため、公募展の作品を見るたびもどかしい思いをしていますが、いつか思いどおりの表現と完成度を兼ね備えた作品ができればと思います。

1978 高知県生まれ

2001 京都市立芸術大学美術学部 卒業



Satsuki Makino

牧野 さつき

大学在学中に漆芸と出会い、本格的に学ぶために香川県漆芸研究所へ入所しました。

現在は名古屋市内の自宅で、公募展に出品する作品を中心に制作を続けています。

技術も表現も未熟ですが、香川漆芸という唯一無二の芸術に携われることに感謝しつつ、日々構進したいと考えています。

1989 茨城県生まれ

2012 筑波大学芸術専門学群 卒業

2015 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了

2016 香川県漆芸研究所 研究員課程 修了



Momoko Matsugi

松木 桃子

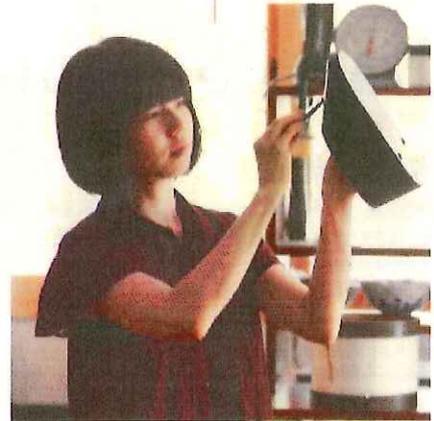
大学生のころ、実技課題で初めて漆に触れました。全身がかぶれましたが、次の課題でも漆仕上げの作品を作りました。その時も体中がかぶれましたが、卒業するまでかぶれながらも漆芸作品を制作し続けました。その後、香川県漆芸研究所に来て数年がたった今では、かぶれることはほとんどありません。少しずつ、漆に慣れかけているのかなと思います。

1991 愛媛県生まれ

2013 横浜美術大学美術学科 卒業

2016 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了

2017 香川県漆芸研究所 研究員 (現在)



Natsuko Minegishi

峰岸 奈津子

大学時代に初めて訪れた日本伝統漆芸展で、繊細なグラデーションを彫りで表現した器物に魅了され、香川県漆芸研究所にたどり着きました。
色使いがとてもしずやかで繊細な彫り技術の香川の漆芸を日本はもちろん、世界中の人々に伝え手にとってもらいたいという思いと自らの技術の追求のため制作を続けています。
現在は堆漆のジュエリーを主に制作していますが、今後も限らない漆の表現を愉しんでいきたいと思っています。

1976 埼玉県生まれ

1999 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科 卒業



Nana Miyamoto

宮本 奈奈

学生時代は美術が苦手、漆芸は別世界だと思っていた私が、弟子入りをして4年が経ちました。
制作過程で手を抜けば、後から如実に粗が表に出て来る漆芸の難しさや繊細さを、作品を造る度に痛感し、自分の未熟さに悔しい思いをしています。
私の作品造りを一番応援してくれていた今は亡き母の為に、これが私の作品だと自信を持って言えるような作品を造りたいと思います。

1980 福岡県生まれ

2002 四国学院大学文学部人文学科 卒業

2012 北阿省三（香川県文化功勞者）に就事



Emi Yabuuchi

藪内 江美

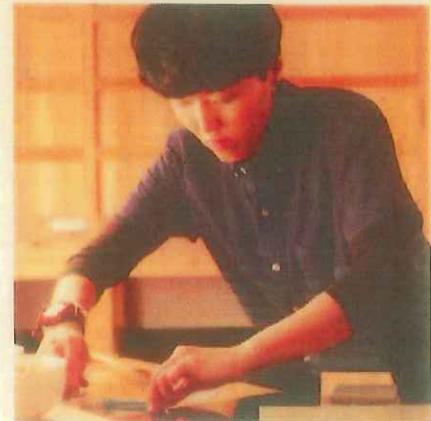
私の中で漆のイメージを180°覆した香川漆芸の彩に魅せられて、この道に踏み出しました。
彫った部分を埋めることで一度隠れてしまった模様を、研ぎ出していく作業が硝子の醍醐味です。彫りと色埋めをかけた表現は無限に広がります。
重なりによって生み出される硝子の深い色合いに思いを込め、期待を抱いて漆に向き合う日々です。

1980 奈良県生まれ

2004 愛知教育大学教育学部生涯教育課程造形文化コース 卒業

2007 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了

2008 香川県漆芸研究所 研究員課程 修了



Karin Yamada

山田 果林

私は、美術大学を卒業後、何か自分に合った素材はないかと模索していた時、漆に出会いました。立体物の塗装に漆を使いたいということきっかけに香川県漆芸研究所に入学し、漆について学び始めました。研究所での3年間で漆に魅了され夢中になりました。

漆と出会って4年目、まだまだ勉強していかなければなりませんが、これからの漆との関わり方を考え、制作に邁進していきたいと思えます。

- 1987 香川県生まれ
- 2010 京都造形芸術大学芸術学部美術・工芸学科 卒業
- 2016 香川県漆芸研究所 研究生課程 修了



主催：香川県、高松市 お問い合わせ先：香川県 政策部 文化芸術局 文化振興課 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3782

| 香川県立ミュージアム | 香川県漆芸研究所 | 高松市美術館 | かがわアートナビ |

工芸を超えた究極のアート

kagawa urushi art project



brand story

challenge

information

information

お知らせ

香川漆芸の祖 玉楮象谷 生誕210周年 「香川漆芸美術展 ～その始まりと今～」



本展は特別展「ワンロード-現代アボリジニ・アートの世界」にあわせ、玉楮象谷の生誕210周年を記念して瀬戸内国際芸術祭2016関連特別企画展覧会として開催します。国の重要美術品「一角印籠（いっかくいんろう）」「堆黒松ヶ浦香合（忘具香合）（ついこくまつがうらこうごう（わすれがいがこうごう）」「堆朱誠箱（ついしゅつづみばこ）」「彩色蒔罫 料紙硯箱（さいしききんまりようしすずりばこ）」などの代表作を中心に、象谷が影響を受けた唐物漆器や監胎漆器も参考出品し、約30点によりアジア文化圏の中で香川の漆芸の原点を位置づけようとする試みです。

また、玉楮象谷の技は、現代の漆芸作家に受け継がれ、近年、香川県漆芸研究所の修了者を中心に若手漆芸作家が日本伝統工芸展や伝統漆芸展で受賞、入選を果たし、一躍脚光を浴びています。コンテンポラリーな視点により、新しい漆芸を切り開こうとする現在のトレンドを紹介し、これからの漆芸のあり方をさぐります。

開催場所 香川県立ミュージアム 常設展示室4・5

開催期間 2016年8月6日（土曜日）～9月19日（月曜日・祝日）

開館時間 9時～17時 ※入館は閉館の30分前まで

夜間開館 19時30分まで

*毎週金曜日と瀬戸内国際芸術祭2016開催期間中の土曜日
(8月6日～9月4日)

休館日 月曜日（ただし8月15日・9月19日は開館）

観覧料 一般410円/団体（20名以上）330円

特別展「ワンロード」の観覧券でもご覧いただけます

*以下の方は無料（当館受付にて証明するものをご提示ください。）

・高校生以下

・65歳以上の方、身体障害者手帳等をお持ちの方

主催 香川県、高松市

協力 公益財団法人松平公益会

関連イベント



(photo名和真紀子)

◆ 講演会

「現代美術のアートマーケットと工芸」

日 時：8月20日（土曜日）13時30分～15時

場 所：香川県立ミュージアム 講堂

講 師：小山登美夫 氏

（小山登美夫ギャラリー代表、明治大学国際日本学部特任准教授）

参加料：無料

定 員：先着230名

申込期間：募集中、定員になり次第終了

◆ ワークショップ 「うるしの教室」

日 時：8月27日（土曜日）①10時～12時 ②14時～16時

場 所：香川県立ミュージアム 研修室

講 師：竹内幸司、津坂保伸、藪内江美（香川県漆芸研究所 漆芸作家）

参加料：無料

定 員：各回20名（先着順）

対 象：小学生以上（小学3年生以下は保護者同伴）

申込期間：7月16日（土曜日）9時～受付開始、定員になり次第終了

◆ 展示解説

日 時：9月3日（土曜日）、9月10日（土曜日）各13時30分～

場 所：香川県立ミュージアム 常設展示室4・5

解 説：住谷晃一郎（香川県文化振興課 美術コーディネーター）

参加料：無料（観覧券が必要）

申込方法：事前申込不要

お申込方法

電話・FAXにてお申し込みください。

FAXの場合は、氏名、電話番号、イベント名・参加時間を明記してください。

< お申込・問い合わせ先 >

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課

TEL.087-822-0247 FAX.087-822-0049